

食育の芽

第13号 2019.3 発行
発行：すみだ食育goodネット事務局

特集
災害時食支援

店の在庫が備蓄食糧に!

有限会社 三善豆腐工房では、おからで作ったクッキー「おからっきー」を販売しています。賞味期限が1年となっているので、災害時には、店の在庫を食糧として活用できます。「墨田区は東京大空襲も経験しているので、『いざという時には助け合う』という意識があると思います」と語るのは同店を営む平田慎吾さんです。

「区内の豆腐店は6店だけ。今後も営業を続けていくには、地域の方から必要とされる店になる必要があるんです」

おからっきーは、東京都豆腐組合が、新たな名物を作るために開発に着手。平田

さんがその担当になりました。

「もともと、豆腐を作るときに出るおからを食品ロスとせずに、有効活用したいと考えていました。話を聞いて、おからを使ったクッキーを作ろうと考えました」

試作品を試食してもらったところ「乾パンみたい」との声が出たそうです。

「日持ちがするから、災害時にも役立つ商品になると思ったんですよ」

同店のように災害時の食に関心のある店舗が少しでも増えるよう、goodネットは区と協働してサポートを進めていきたいと考えています。



おからで作った「おからっきー」。店の在庫が災害時には食糧として活用できる



「おからっきー」を開発した三善豆腐工房の平田さん。おからっきーは同店で販売。goodネットが行う啓発活動にも商品を提供している

災害時、「食の支援が必要な方」をサポートするために

災害時に 食の支援が必要な方

- ・ 疾病のある方
- ・ 食物アレルギーがある方
- ・ 妊産婦、乳幼児
- ・ 食べる機能が低下している方 など

墨田区の食育推進計画では、「災害時食支援ネットワークの構築」がリーディングプロジェクト(重要項目)になっています。その目的は、災害時に「食の支援が必要な方」をサポートするために、ネットワークを構築することです。

goodネットでは、これまでのつながりを活かした平時の「食育推進ネットワーク」を今後もさらに充実させ、災害時には「食支援ネットワーク」として機能することを目指して、活動を続けています。

対談

つながりが、 災害を乗り越える力!

goodネット設立当時から現在まで、後援会員として活動をサポートしていただいている山崎製パンは、阪神・淡路大震災、東日本大震災などで緊急食糧を供給してきた実績があります。その体験を共有させていただき、災害時食支援に活かすために対談を行いました。



早川 立
山崎製パン株式会社
販売物流本部 セールズ部長

青島 節子
すみだ食育goodネット
副理事長

活動の精神を共有するには?

●青島:山崎製パンさんは、3.11の東日本大震災の当日から緊急食糧の供給を開始されたそうですね。

■早川:地震で仙台工場のすべての生産ラインが停止したので、避難所への緊急食糧は、計画停電がない中京・関西で生産した製品を自衛隊の輸送機で宮城県に空輸しました。

●:空輸ですか!

■:はい。4月17日には仙台工場が再稼働したので、トラックを使って避難所や救援物資集積所へ運びました。

●:最終的に11月頃には、どのくらいの量を供給されたんですか?

■:パン1560万個、おにぎり810万個です。

●:すごい量ですね。なぜ、これだけの対応ができたのでしょうか?

■:弊社では、フレッシュな製品をお客様に届けるために工場を全国に配置、

自社の物流網を構築しています。また、「日々、お取引先からご注文いただいた品は、どんな試練や困難に出会うことがあっても、良品廉価・顧客本位の精神でその品を製造し、お取引先を通してお客様に提供する」というヤマザキの精神も大きいと思います。

●:そうした精神を、社員のみなさんで共有するために、どんな工夫をされているのですか?

■:「これがヤマザキの精神だよ」と話を聞いただけでは、行動に移すことは難しいと思うのです。そこで、例えば社内研修などで、東日本大震災のとき、セ



通常の配送ルートで自社配送を行ったため迅速で安定した供給が可能になった

ールドライバーがどんな対応をしたかを記録したビデオを見せています。

●:goodネットでも、イベントが終わった後のミーティングで、各メンバーが感じたことや気づいたことを言葉にして共有しています。

■:そうなんですか。言葉にすることは、すごく大切だと思います。

●:山崎製パンさんは、大切にしている。だからこそ、災害時の対応も可能なのでしょうか。

備蓄食のイメージが変化した

●青島:山崎製パンさんは、goodネットが災害時の食の普及啓発活動を開始したときから、商品を提供してくださっています。ありがとうございます。

■早川:弊社としても、みなさんが商品の紹介をしてくださっているわけで、ありがたいと思っています。

goodネットの 普及啓発活動

災害時の食支援、誰に、どんな支援が必要か?

goodネットは各種イベントに参加、災害時の食に関して普及啓発活動を行っています。家庭での食糧備蓄の大切さを伝えるだけでなく、災害時に食の支援が必要な方がいることも説明しています。

そのために、会員などの企業・団体にご協力いただき、備蓄食として活用できる商品や食物アレルギー対応の商品の展示、飲み込む機能が低下した方が使う「とろみ調整食品」を体験できる場などを提供しています。



各企業から提供していただいた商品を紹介



災害時の食について伝えたいことをまとめたパネル

●：災害時食支援は、墨田区食育推進計画のリーディングプロジェクトになっています。goodネットも一緒に活動する上で、何ができるかを考え、商品をご紹介することにしました。「うちも備蓄をしよう」と考えるきっかけになってくれれば、と考えたのです。

■：実施されて反応はどうでしたか？

●：最初の頃は、備蓄食というと乾パンや氷砂糖などをイメージする方が多かったですね。「日持ちする食品を多めに買って置き、使った分だけ補給するといいですよ」と説明すると、「備蓄に対する考え方が変わった」と言っていた。よかったなと思っています。

■：最近は販売店様でも、ローリングストック法を意識して、売り場の展開をされていますね。災害食も、美味しくないと(笑)。そんな感じに変化していますね。

●：たしかにそうですね。「備蓄食は美味しくないの、あまり食べたくない」という話が出たことがあります。避難所での生活はストレスが大きいので、食

事のストレスは減らした方が良くと思うのです。そこで、「備蓄食を日頃から食べてみてください。避難所では慣れているものを食べられる方がいいと思うのです」とお伝えしました。

■：すごく具体的ですね。今後は、アレルギー対応も必要になるでしょうね。

●：そういう商品もご紹介していますし、市場で販売される商品の種類も増えたと感じます。

■：goodネットさんがこうした活動を続けていることも、企業の姿勢を変える力になっているんじゃないですか。

●：ありがとうございます。少しでも多くの方に、こうした商品があること、何より災害時の食に配慮が必要な方がいることを、知っていただきたいと思って活動しています。



平時のつながりは災害時にも生きる！

●青島：10年近く食育活動を続けてきましたが、時々「私たちの活動は、社会の役に立っているのかな？」という話になることがあるのです。でも最近は、

何か感じてくださったり、理解してくださる方が1人でもいれば良いのではないかと。そう思うようになりました。

■早川：そうですね。弊社ではセールスドライバーの教育用ビデオを作っているのですが、その中にお客様からいただいたお褒めの言葉をもとに制作した映像があるのです。大きなことをしなくても、自分にできることを実践すれば、お客様は感動してくださることがあると伝えたいのです。

●：本当にそうですね。私たちも、自分にできることを丁寧に行うという原点に戻らなければと、そう思いました。

■：goodネットさんの活動に協力させていただき、個人的に、すみだの方とのつながりができました。みなさん、お互いを認め合っていると感じます。だからこそ多様な方々がつながり、様々な食育活動が生まれているのですね。

●：ありがとうございます。お話を伺って、災害時の食支援を充実させるためにも、平時のつながりを育てていくことが大切だと改めて思いました。



普及啓発活動で紹介している商品。賞味期限45日の「テイスティロング」(左)、5年保存が可能な「羊かん」(右)

災害時食支援の普及啓発活動に欠かせない企業のサポート

山崎製パン株式会社、有限会社三善豆腐工房以外にも、以下の4企業から提供された商品を使って普及啓発活動を行っています



株式会社明治

計量が不要で溶かすだけのミルク「らくらくキューブ」、誤嚥の危険性を減らせるとろみ調整食品「トロメイク」



アサヒグループ食品株式会社
フリーズドライ商品とバックごはんがセットされた「食べながら備えるローリングストックBOX」



株式会社SN食品研究所

アレルギー特定原材料等27品目不使用で、温めなくても水がなくてもそのまま食べられる「救給シリーズ」



アルファー食品株式会社
袋にお湯を注ぐ、または水を入れれば、添付のスプーンを使ってそのまま食べることができる「安心米」

災害時食支援 区の取組

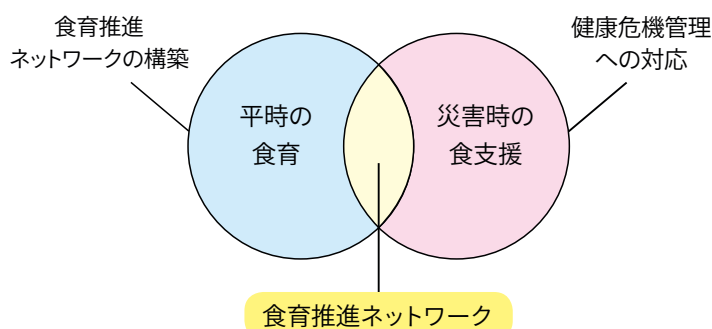
区の取組について、福祉保健部保健衛生担当部長(墨田区保健所長)の伊津野 孝さんに話を聞きました。

今後もgoodネットとの協働を大切にしていきたい

昨年4月に着任して、すみだの食育が、区の職員だけでなくgoodネットさんとの協働で推進してきたことを知り、驚きました。災害時の食支援のような取組は、行政から協力依頼するのが普通だと思うのですが、goodネットさんは自発的に活動してくださっています。区民の方に資料を渡すだけでは伝わらない情報も、goodネットの方が対面で説明することを大切にされています。今後もgoodネットさんとの協働を行っていききたいですね。

目指すのは、栄養士の活用と対応マニュアルの完成

「災害時食支援ネットワークの構築」は、区の食育推進計画でリーディングプロジェクト(重要項目)の一つに位置づけられています。今後は、災害時に栄養士が専門性を活かした活動ができる体制などをつくっていききたいと思います。また、ネットワーク構築を目指し開催している「災害時食支援ネットワーク検討会」では、災害時の対応マニュアルの完成を目指して検討を進める予定です。



伊津野 孝
いづの たかし
墨田区福祉保健部
保健衛生担当部長
慶應義塾大学医学
部卒、2018年度より
現職



首都防災ウィーク期間中のイベントで、
災害時の食について普及啓発活動を行う



災害時食支援ネットワーク検討会(主催:墨
田区保健計画課)の会議の様子

救助活動のエキスパート、自衛隊との新たなつながり

昨年9月、江東区亀戸にある防衛省自衛隊東京地方協力本部(以下「地方協力本部」と略)の江東出張所を区の食育担当とgoodネットが訪問しました。

目的は、災害時食支援をさらに進めるため、地方協力本部に連携を依頼することです。現在、区では災害時食支援のネットワークづくりを推進する具体策として、災害時の食支援に関するマニュアル作成を進めています。そのためには、実際の救助活動を

知ることが重要です。そこで地方協力本部に、自衛隊の災害派遣時の救助活動について講演を依頼。2月7日に実施しました。

この新たなつながりは、平成20年度に実施した「すみだ食育推進リーダー育成講習会」の講師を担当された農林水産省の事務官が、その後、防衛省に異動したことをきっかけに実現。いざという時お互いの役割を理解し、協力できる関係を築いていきたいと思っています。



地方協力本部での意見交換の様子